

応急処置 | 骨折

骨折

【骨折の確認方法】

●開放性骨折



骨折したときに骨が皮膚外に飛び出したものや、外の傷が骨まで達している。傷が骨折部に達している場合、骨折後24時間以内に、ばい菌や泥などの汚物を消毒液や抗生物質の入った生理食塩水で洗い流し、破壊された組織などを取り除く手術が必要になる。

●皮下骨折



骨折部が体の表面の傷と直接つながっていない、骨が皮膚の中で折れている骨折のこと。開放性骨折と比べると外見では判断しづらいので右記の症状から判断する。

皮下骨折の症状

- 激しい痛みがある
- はれたり患部が変形している
- 冷や汗が出たり、寒気がする
- 動かすと強い痛みがある
- 曲がるところが曲がらない

【処置方法】

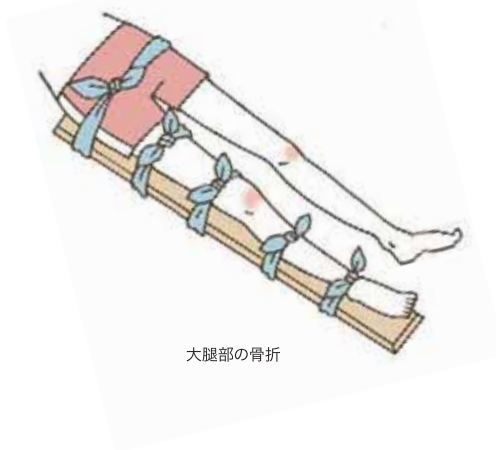
- ① 副木を当て、傷病者が痛くない位置で固定する。
副木は骨折した患部の上下の関節より長くする。
大腿部なら、足首から腰まで届く副木をあて、包帯を巻き固定する。
- ② 固定したらすぐに医師の手当てを受ける。
- ③ 顔色が悪くなったり、冷や汗が出てきたら毛布などで体を温めておく。

副木に利用できるもの

板、傘、ステッキ、段ボール、雑誌、新聞紙など



手首の骨折



大腿部の骨折